

講習指導名	バスジャック対応訓練				作成日	2024年9月5日		
日時	2024年8月27日	13:00	~	15:00	作成者(回覧時戻り)	統括管理者		
場所	京成バスシステム(株)本社営業所 (千葉県船橋市)							
テーマ	訓練	資料	千葉県バス協会作成資料					
	1)バス車内における乗務員の対応							
	2)運行管理者の対応							
	3)対策本部の対応							
	4)千葉県警察本部の対応							
講師								
出席者 および回覧範囲	保安部会会長 京成トランジットバス(株)代表取締役社長				指導主任者検印			
	関東運輸局千葉運輸支局長							
	千葉県警察本部 刑事課 捜査第一課長							
	京成バスシステム(株)取締役社長							
	貸切バス事業者、乗合バス事業者50名ほど参加 (中山観光自動車(株)安全統括管理者・千葉営業所統括運行管理者)							
詳細	京成バスシステム(株)において、実際の路線タイプバス車両を使っての訓練風景を見学した。							
	主催者あいさつでは、ハイジャックは「いつ」「どこで」「どんな」状況でも発生が起こりうる。							
	その時の為にも、想定・訓練・実施を試みてほしい。との話があった。千葉運輸支局長、千葉県警察本部							
	あいさつでも公共機関を利用したテロ行為として、不特定多数が利用するバスは対象になりえると思ふとの話が合った。実際過去にも国内においてもバスジャックが発生した。							
	「ショッピングセンター送迎バスにハイジャックが起きた」という設定のもと実施された。							
	1)バス車内における乗務員の対応として大切なことは「乗客の安全の確保」「運行の安全の確保」							
	「犯人の要求に従う」ことである。その為には冷静に対応し、犯人を刺激しないことが重要である。							
	確保できた時点で次の行動「緊急事態を告げる(会社や周りに知らせる)」をとる。							
	2)運行管理者の対応として大切なことは乗務員からの報告からドラレコの車内カメラを用いた情報							
	(乗客の数確認や様子)把握をすることや、走行位置、車両NO、乗務員の情報などを確認して							
	警察へ通報する。取引先(ショッピングセンター)へも事態を報告してお客様の情報収集に努める。							
	通報後も常に新しい情報の収集、報告に徹する。							
	3)対策本部の対応として、安全統括管理者は警察等への連絡が出来ているかなどの確認をし、運輸支局							
	バス協会へ連絡する。社長は対策本部の設置の指示、情報収集、関係者社員の非常招集をする。							
	対策本部設置後、現在の状況報告、お客様の情報、ケガの有無、警察への車両の情報提供などの他、							
	報道関係への対応をする。※ 4)千葉県警察本部の対応は非公表にいたします。							
	今回の訓練風景を見て感じたことは、緊急事態に対応できる組織づくりと役割分担の明確化が鍵だと感じた。乗務員に訓練を行うことやシステムを入れることは大切だが、非常時の管理者側の対応が出来ていなければお客様の命を守ることは出来ないと痛感しました。自社の組織づくりの見直しをします。							